スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）とは

南米原産の湛水に生息する巻き貝の一種で、生育初期の稲やレンコン等を加害する。

1981年、台湾から食用目的で輸入されたが、後に野生化した。

関東以西で発生が確認されており、令和４年には35府県で発生を確認。

【学名】

Pomacea canaliculata (Lamarck)

【加害植物】

稲、レンコン等の水田作物、雑草等。

【発生生態及び被害】

１．田植え後、約３週間までの柔らかく小さな苗を好んで食害し、特に稚苗を移植した場合に被害が大きくなる。

２．繁殖力が高く、年間産卵数は 3,000 個以上。卵塊は約 200～300 個程度の卵からなり、濃いピンク色で水上の植物体や水路の外壁に産み付ける。孵化までの期間は、25℃で約２週間。

３．夏季に生まれた貝が秋までに殻高１～３cm になり、そのまま土中で越冬する。越冬個体は、翌年春に水田への入水と共に活動を再開する。

４．乾燥に強く、水がなくても半年以上生存が可能。一方、耐寒性は高くなく、－３℃では多くの個体が死に至る。

【主な防除方法】

１．水田取水口にネットや網を設置し、水路から本田への侵入を防止

２．田植後の浅水管理（ジャンボタニシの移動性を抑制することによる加害防止）

３．登録農薬の散布

４．地域ぐるみでの成貝、卵塊の除去

５．冬期の耕うんによる越冬個体の機械的な破砕

【写真】

左：成貝、中：卵塊、右：被害を受けた水田